

徳川幕府が260年続いた

源を築いたのは「春日の局」だった

戦国時代の武将たちは「お家」の相続と安泰のためには、息子といえども信頼できぬ子供だと跡継ぎとはしなかった。強い男を養子に迎えて、戦乱の時代を乗り切った。しかし、徳川家康は天下を平定し戦のない世の中を確立すると、家の跡継ぎは長男と決めた。つまり、無用な争いをしないような仕組みとした。結果 260 年もの長きにわたり繁栄をしたがこの仕組みを創ることになったのは…

☆徳川家康にこれを決断させたのが春日の局

春日の局は名を「ふく」と言い、明智光秀の重臣美濃の斎藤利三の娘。斎藤利三は光秀から丹波の国を与えられ、福知山城近くの黒井城を拠点にした。この斎藤家は有名な斎藤道三の本家で、道三は分家だった。父は明智光秀とともに織田信長を本能寺で討つが、山崎の戦で秀吉に敗れ処刑された。「ふく」は伯父の稲葉氏の養女となり、小早川秀秋の家来で稲垣正成の後妻となる。稲垣正成は関ヶ原の戦いで、主君小早川秀秋を説得して徳川への寝返りをさせた。よって、徳川家康勝利の功労者となった。

★ 「ふく」は後に稲垣正成と離縁する形をとり、二代将軍秀忠の嫡子「竹千代(後の家光)」の乳母になる。この時自分の子供は丹波において江戸へ出たと言う。乳母になれたのは「ふく」の教養だけでなく、夫が関ヶ原の寝返りで家康勝利の功労者であることが大きく左右したと言われる。

★ 家光はお江との間に二人目の子供ができると、秀忠もお江も長男ではなく次男国松をとてまかわいがる。

★ これを危惧した「ふく」は、お伊勢参りと称して江戸城を離れ、途中駿河の大御所家康に直訴した。それは、このままでは長男竹千代ではなく次男が三代将軍になってしまうと伝えたのだ。その後家康は孫の顔を見たいと江戸城を訪れて、二人の孫を自分の席に呼び寄せる。この時、竹千代とともに次男も家康のそばに来るが、家康は竹千代を抱いて次男には「兄とは違うのだから控えなさい」と言う。これにより次の将軍は竹千代に決まったと言われ、徳川家は長男が跡継ぎとなることが確立した。

★ 竹千代を将軍にすることがかなうと、「ふく」は自分の息子を引き立ててくれるように売り込む。そして、長男の稲垣正勝も家光の小姓にとりたてられて、後には老中に就任、その後は小田原藩主となった。さらに、正勝の子供も老中になっている。

★ 乳母として竹千代の成長を見守り、将軍の地位も確かなものとした。加えて自分の息

子の出世もかない「ふく」の女の夢は成就したかに見えたが、将軍となった家光(竹千代)に跡継ぎができなかった。

★ 「ふく」は次に将軍の跡継ぎを確実に誕生させるべく「大奥」をつくった。ここでは女としてのさまざまな教養を身につけさせたと言う、単に将軍のハーレムではなかったのだ。しかし、確実に将軍の子供が誕生しなくてはならず、将軍以外の男子禁制であり生まれた子供は間違いなく将軍の子供だったのだ。その結果家光の子供が誕生し、戦のない徳川幕府は15代も続くことになった。これも徳川幕府の安定化に大きく寄与した。

松平信綱・柳生宗矩とともに家光を支えた鼎の一人と言われている。また、朝廷との交渉の前面に立つなど、女性政治家として随一の人。「ふく」は朝廷から**従三位**の位と「**春日の局**」の名を受ける、**後には従二位**となる。地位も平時子・北条政子以来の高い地位に上った。

★ このように徳川幕府は家光の乳母「ふく」によって長く続くことができた、とも言えるのだ。65歳で亡くなった。

史実には曖昧なところが多く、絶対ではないのはもちろんであるが、このような見方もされていること。それに、徳川の歴史が一人の女性の働きによるところ大であるというのも、聞いていると男を操って世の中を動かしているのは、やはり女だということか。